

## 児童生徒の安全確保と安全教育

～セーフコミュニティモデル校として～

鹿児島市立武小学校

教諭 内山 涼子

### 1 主題設定の理由

#### (1) 校区の環境課題等への対応

現在、本校は児童数は549人、学級数は23学級（うち特別支援学級4学級を含む。）である。鹿児島中央駅を徒歩圏内に含み、鹿児島市のほぼ中心に位置している。交通量や人の往来も多い場所であるため、校外での交通事故や不審者事案も懸念され、様々な面から「安全」を意識しなければならない環境にある。

#### (2) セーフコミュニティモデル校として

本校では、鹿児島市のセーフコミュニティの考えのもと、「学校の安全」分野のモデル校（H30～R2）の指定を受け、校内等でのけがの減少に向けた取組を学校全体で推進してきた。この中で、子供のけが防止を中心とした安全に対する意識と行動する力を高めることを重視する必要がある。

### 2 安全教育の実際

#### (1) 学校・家庭・地域が連携した安全確保体制づくり

##### ア 3分間避難訓練

本校では、年6回の3分間避難訓練を実施している。これは、不審者が校内に侵入した際の対応を子供と教職員が適切に行うことができるように繰り返し行うものである。不審者の侵入を校内放送で「大型トラックが入ってきた。」と知らせると、子供たちは近くの教室へ逃げるようにしている。訓練の時刻や侵入場所、対応する職員、予告あり・予告なし等、



【避難訓練】

状況を毎回変えることにより、実効性を高めている。そのような中で新たな取組として、全教職員がTeamsを活用して連絡・連携を図ったりできるようにするなど工夫も重ねてきている。

#### イ 緊急時引渡訓練

年に一度実施している緊急時引渡訓練だが、より実効性のあるものにするために、土曜授業日に実施し、原則、保護者全員が来校し確実に引渡しができるようにした。大きな災害や事件が発生した時になるべく迅速な引渡しができるように、子供たちを地区毎に集合させ、保護者の校舎への出入口やルートを決めて効率よく移動できるようにした。また受付での引渡カードの確認

・カード忘れの対応・子供の誘導等、全職員で役割分担して円滑に進められるように改善してきている。



【引渡訓練】

#### (2) セーフコミュニティモデル校における特別

活動を中心とする子供の主体的な活動の展開  
市学校安全対策委員会において、小学生の事故(けが)は学校内で発生することが最も多いとの報告から、校内でのけがの減少を目的とする取組を特別活動を中心に進めることになった。具体的な取組内容は、(ア)校内パトロール (イ)危険箇所マップ作り (ウ)「危険」などの表示 (エ)ポスターの掲示 (オ)集会活動での呼びかけの5つである。

本校では、まず、子供たちが安全を意識した取組を身近なものとして感じ、主体的に活動できるように、児童会の生活安全委員会が安全キャラクターの募集を行った。高学年の子供が提案した「ストップリン」というマスコットが決定し、廊下に掲示したり安全たすきや安全うちわを作成したりして、セーフコミュニティの取組のシンボルとなった。



【マスコット：ストップリン】

## ア 校内パトロール

当初は、生活安全委員会が休み時間に校内を回り、廊下の歩き方や教室の過ごし方について、全校の子供たちに呼びかけてきた。昨年度から、この活動を全学級に広げ、学級の係が「ストップリン」のたすきを掛け、呼びかけのうちわを持ってパトロールを行っている。1年生の学級では、「みんなのことが大事だよ。ストップリン！」と係の子供が声を合わせて呼びかけた。また、環境委員会は、環境面からの校内パトロールを行い、水道周りの濡れによる転倒防止のための拭き掃除や校舎内の整理整頓を行ってきた。



【校内パトロール】

## イ 危険箇所マップ作り

保健委員会がけがが起こった場所や時間、内容等を統計・グラフ化し、危険箇所が一目でわかる「校内けがマップ」やグラフを作成した。また、安全への意識が継続し高まっていくように、毎日のけがの件数や状況をホワイトボードや校内放送で伝えている。



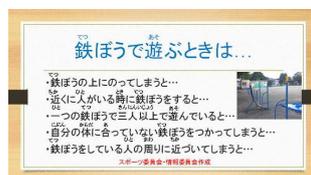
【校内けがマップ】

## ウ 「危険」などの表示

保健委員会が「校内けがマップ」をもとに危険箇所に「危険」マークを表示した。JRC委員会では、ボランティア活動で収集している空き缶等の収集場所を整理整頓し、コーンを置いて「危険」表示の工夫を行った。

## エ ポスターの掲示

保健委員会や生活安全委員会、情報委員会等、多くの委員会がそれぞれの立場からけがの予防について考え、啓発ポスターを作成した。また、スポーツ委員会では、校庭の遊具の遊び方について、校内テレビ放送で注意喚起を行った後、校庭のそれぞれの遊具にポスターを設置した。このポスターは「KYT」の視点から危険な使い方をした時どのようなことが起こるか、みんなが考えることができるように工夫した。



## オ 集会活動での呼びかけ

児童総会で安全をテーマにしたスローガンを決定し、それを基に各学級でテーマを設定して取り組んだ。また、代表委員会や児童保健委員会でそれぞれの取組状況を話し合うようにし、子供たちの意識を高めた。

総務委員会が運営するKYT集会では、児童が中心になって、校庭の遊具の遊び方についてどんな行動が危険なのかを伝えるための動画を作成し、それをもとに全校の話し合い活動を行った。

また、保健委員会が運営する保健集会では、けがの減少を目標にこれまで校内で取り組んできたことを確認し、保健室・病院で手当を受けた件数の3年間の推移を伝え、今後更にどのようなことに気を付ければよいか全校で考えることができた。



【児童総会】

## 3 取組の成果と課題

### (1) 成果

ア 3分間避難訓練や緊急時引渡訓練など、目的をもって安全教育に関する行事を分担・協力して行うことにより、その重要性を全校体制で考えることで、児童及び教職員の安全への意識が高まった。

イ セーフコミュニティモデル校の5つの取組内容について、子供主体の様々な工夫した活動が各委員会活動で進められ、学校管理下の事故発生件数、発症率ともに減少した。

### (2) 課題

ア 安全教育や安全管理に関する体制づくりを確立し、継続・充実させていく必要がある。

イ コロナ禍でさらに生じた安全に関する取組や情報共有、課題を考慮し、学校・家庭が連携してより一層強化していく必要がある。

